

トルコ語の *yari*, *yaryu* (裁判) が

秘史に札兒忽 (*Jaryu*)

の如きこれである。元來ウイグル字で書いてあつたものを、何時今見る如き秘史の漢字に音譯したものか、仔細のことは明らかでないが、大概明初と見て誤はなからう、さうして此の翻譯時代の蒙古語ではウイグル字の *y* 字で寫してあつた語頭音の或ものは、既に *j* と發音せられて居つたのである、勿論これは尙以前よりのことで、元初から既に站や札撒等の文字の用ゐられて居るによつても明らかである、しかしながら札木 (*Jam*) を Marco Polo が *yam* (*b*) といひ、またトルコ語の *yanga* (象) に當るものが、元史の中に養阿沙の養阿 (*yanga*)、或は牙罕沙の牙罕 (*yagan*) と見えて居て、²⁰⁾ また華夷譯語などに見える札安即ち今の蒙古語 *jagan* の形になつて居なかつたりするのを見ると、この變化の起つたのは時と處によつて頗ぶる相違のあつたことを認めなければならぬ、兎に角此等の語の頭音 *j* は *y* 音に還して見るべきであれば *jasa*, *jasay*, *jarliy*, *jaryu* 等は勿論 *yasa*, *yasag*, *yarliq*, *yaryu* である、さうして此等の語は既に從來トルコ語としてその語原を説明せられて居るものである、即ち *yasa*, *yasag* は *yas*, *yaz* = *Reich*, *Ordnung*, *Regel*, *ordenen* 等の義より生じ、また *yas*, *yat* 即ち *eben*, *gleich* 等と縁故ある語と見られ (Vambéry *ibid.* 134) *yarliq* は *yar+liq* じ *yar* は *Nachricht*, *Anzeige*, *Verkündigung* から出たものと (Radloff, *ibid.* III, 141) *yaryu*, *yari* は同様に *yar+yru*, *yar+yi* の形だとらばれて居る (Radloff, *ibid.* III, 137) (*yar* なる語も蒙古に入つて *jar* として現存して居ることはいふ迄もない)。

上に述べたのは秘史に見ゆる言葉の中でトルコ語、もしくはトルコ語の介を経て蒙古語に入つたと思はるゝも